

# 京都仙洞御所

Kyoto Sento Imperial Palace



## ■京都仙洞御所・京都大宮御所の歴史

仙洞御所とは、皇位を退かれた天皇（上皇、院などといわれる）の御所である。後水尾上皇の御所として江戸時代初期の寛永7年（西暦1630年）に完成した。それと同時にその北に接して東福門院（後水尾上皇の皇后、将軍徳川秀忠の娘和子）の女院御所も建てられた。古くは内裏のように一定の場所にあったわけでもなく、また必ず置かれたわけでもないが、後水尾上皇以来現在の地すなわち京都御所の東南に定まった。後水尾上皇が御存命の間に三度焼失し、その都度再建されてきたが、以後、霊元、中御門、桜町、後桜町、光格の五代の上皇の仙洞御所として使用された。嘉永7年（1854年）の大火で京都御所とともに焼失したのを最後に、ちょうどその時上皇がおられなかったこともあり造営されないままとなった。そのため、現在の仙洞御所には、榴花亭、又新亭の二つの茶室以外に御殿等の建物は全くなく、東側いっさいに南北に展開する雄大な庭園が往時の面影を残しているだけである。現在の築地塀は安政2年（1855年）、京都御所と共に建造されたものである。

大宮御所とは、皇太后の御所をいう。現在、築地塀内北西にある大宮御所は、

このパンフレットは、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



慶応3年（1867年）に英照皇太后（孝明天皇の女御）のために女院御所の跡に造営されたものである。英照皇太后が東京に移られた後は、御常御殿のみを残して整理され、現在に伝えられている。

庭園は、仙洞御所の作事奉行であった小堀遠州が寛永7年（1630年）の御所の完成に引き続いて作庭したもので、古図によれば仙洞・女院御所とも石積みの直線的な岸辺を有する斬新な感覚の広大な池をもっていたようである。しかし、改修拡張等により遠州当時の遺構は南池東岸の一部にわずかに認められるにすぎない。18世紀の前半までに女院御所の庭園（北池）と仙洞御所の庭園（南池）が濠割（ほり）でつながれた。

## ■概説

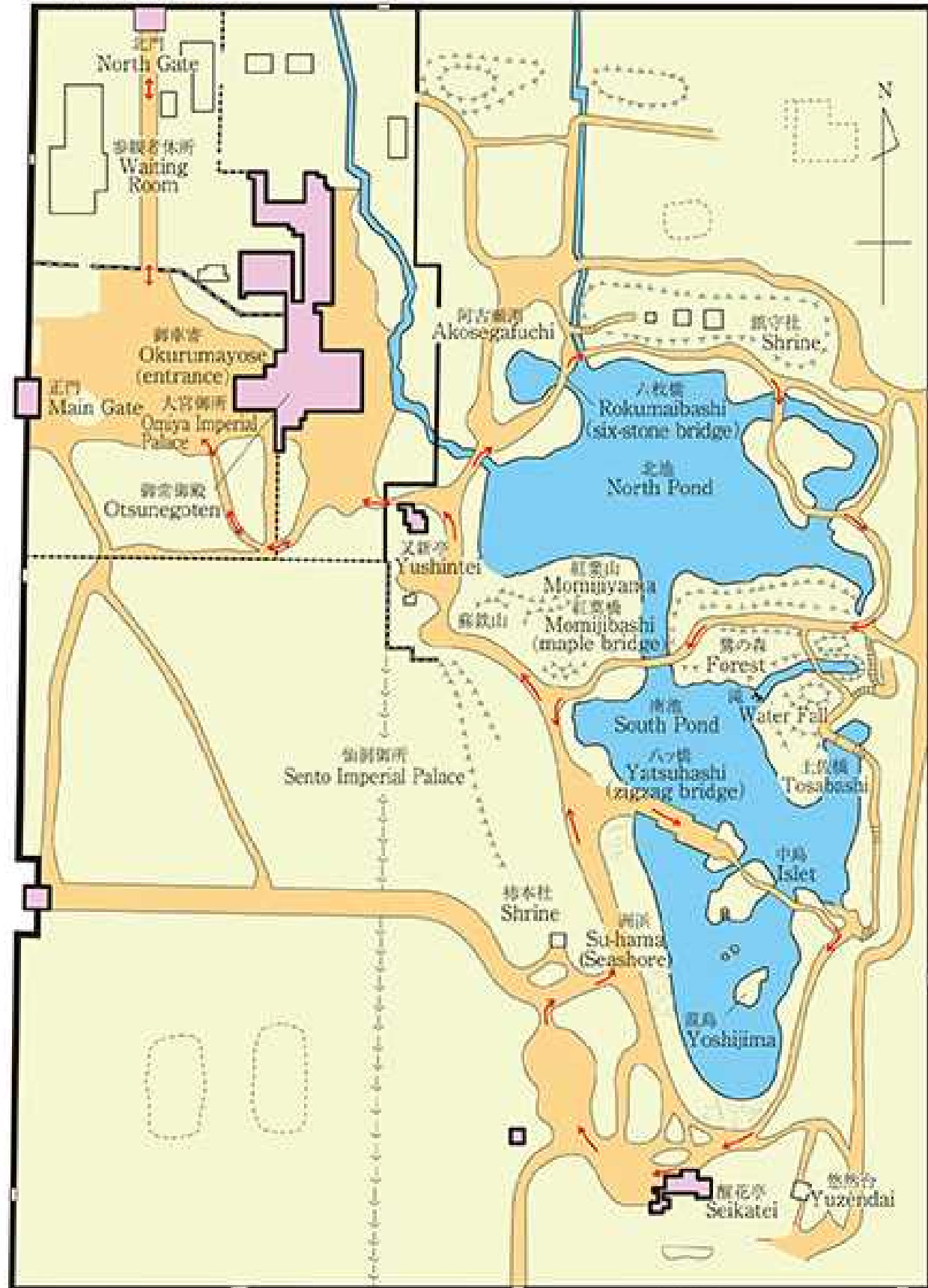
北西の一隅にある大宮御所は、明治5年（1872年）まで英照皇太后のお住まいであったが、現在は、天皇皇后両陛下や上皇上皇后両陛下が入洛された際の御宿舎として用いられている。その南は仙洞御所の塀舎が建ち並んでいた跡であるが、現在は松林となっており、大正・昭和の即位の御大典にあたって大嘗宮がここに造営された。東側一帯は女院御所と仙洞御所の庭園が掘割によって結ばれて一体となって発展した回遊式大庭園である。総面積9万1千㎡余りで、そのうち大宮御所の面積は約1万6千㎡、仙洞御所の面積は約7万5千㎡である。

参観するための出入口は、大宮御所の北門が使用されている。

京都御所、桂離宮、修学院離宮とともに皇室用財産（国有財産）として宮内庁が管理している。

# ■京都仙洞御所 略図

参観者出入口 Entrance/Exit



このパンフレットは、室くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



発行 公益財団法人菊葉文化協会  
写真・資料提供 宮内庁